

「長谷のストーン・ショップ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「ストーン・パワー」ブームで、ストーン・ショップは各地に見られる。サンシャイン通りにもあるし、観光地にも石だけを扱う店は多い。



江ノ電の「長谷駅」から徒歩数分のストーン・ショップは、見た目は普通の二階建ての民家の一階で、どちらかという八百屋さんのたたずまいに近い。折り畳み式のタープ(雨除け)から見ても、かつては八百屋さんか魚屋さんだったのだろう。近寄らないと、ストーン・ショップだとはわからない。小さな店なので、売っているものも大したことはないだろうと思っていたが、「吸い込まれて」びっくり!



その品ぞろえたるや、膨大な種類と数だ。特に化石のコレクションがすばらしい。アンモナイトだけでも数百個が並んでいて、観光地にあるような博物館よりもよほど充実している。ざっと見ただけでも、古生代から中生代後期のアンモナイトまで揃っている。



日本のショップで買えるアンモナイトは、ほとんどが海外産だ。ドイツ、イギリス、フランス、モロッコ、マダガスカル、カナダ産などが多い。しかしこの店の特徴は、北海道産のアンモナイトが豊富なことだ。写真は北海道産のアンモナイトの代表種の一つ「テトラゴニテス」の標本。母岩に2個ついていて、私が持っている標本よりずっと大きくて美しい。殻も化石化していることに、かなり価値が認められる。更に産地が「北海道〇〇町△△川□□沢」とまで詳細に書かれたラベルがついている。これが標本の価値を高めている。値札を見て驚いた・・・1万円。私は一桁間違えているのではないかと心配になってしまった。



こちらも北海道産の「ヘテロプチコセラス」という珍しいアンモナイト。私は博物館以外でこの種を初めて見た。北海道産のアンモナイトの特徴は、白亜紀後期の「異常巻き」と呼ばれる種類が多いことだ。このヘテロプチコセラスも、通常の渦巻き型ではなく、「つこの字型」を何度も繰り返す、異形のアンモナイトだ。これも2万円。この化石の価値を知る者なら、ちょっと信じがたい廉価な設定だ。車で来ていれば即決で購入なのだが、この日は電車での行程。時間もあまりなく、次回に必ず入手しようと決めた。